

京都大学医学部附属病院単独型歯科医師臨床研修プログラム

●プログラムの基本理念と特徴

京都大学医学部附属病院（以下、京大病院）の研修プログラムにおける歯科口腔外科研修では、すべての研修医が臨床医学、特に隣接医学を理解した上で患者の歯科的ならびに口腔外科領域のプライマリ・ケアに対応できる基本的診療能力の育成を目標としている。

即ち初期研修の第一の目的は基本手技、技能の習熟もさることながら、正確な診断、診療ができるようになることが重要であり、多数症例や難しい症例、あるいは特殊な技術を経験することが目的ではない。基本を学び、自分で考え解決できる力を養うことの重要性を強調したい。京大病院歯科口腔外科では年間に2万名を超える外来患者数と20の入院病床は常時90%近い稼働率を維持しており、研修医が担当し経験できる症例は充分にある。

また、医療の場における多才な職種とそれぞれの役割や立場を理解する心や、チーム医療における協調性を養うことも重要な目標である。

研修医は臨床研修プログラムに沿い、オリエンテーションに加えて、基本習熟コース、基本習得コースの、それぞれのカリキュラムユニットの目標を達成することを目的として研修を行う。

京大病院と臨床研修協力施設において、「基本習熟コース」、「基本習得コース」に基づき1年間の研修を行う。

「基本習熟コース」については、研修歯科医自らが確実に実践できることが基本であり、「基本習得コース」については、頻度が高く臨床において経験することが望ましいものである。

「基本習熟コース」

医療面接
総合診療計画
予防・治療基本技術
応急処置
高頻度治療
医療管理・地域医療

「基本習得コース」

救急処置
医療安全・感染予防
経過評価管理
予防・治療技術
医療管理
地域医療

4～3月

京大病院

●研修の目標

(1) 一般目標

歯科口腔外科領域対象疾患に対する診療内容を理解する。

- ① 歯科・口腔外科における診断法・処置（手術）適応・手技・管理の基本を修得する。
- ② プライマリ・ケアとしての歯科・口腔外科疾患の知識を修得する。

(2)行動目標

- ① 患者及び家族と良好な人間関係を確立し、現病歴、既往歴、家族歴を的確に聴取する方法を身につける。
- ② 正確な理学的所見を把握する能力を得る。
- ③ 患者を社会的、家族的、病態的に観察し、その特徴を理解すると共に問題対応能力を身につける。
- ④ 医療チームの一員としての役割を理解し、チーム医療の遂行に努める。
- ⑤ 医療遂行上の安全性の確保の方策について学ぶ。
- ⑥ 常に指導教官と密接なコンタクトをとり、病態の把握、対処方法患者又は家族への説明、プレゼンテーション法等について学ぶ。

(3)経験目標

- ① 自覚症状・他覚症状の的確な分析能力をつける。
- ② バイタルサインを含む身体所見を正しく把握する。
- ③ 全身状態と疾患固有の病態との関連を理解する。
- ④ 診断・処置・管理の理論及び基本手技を正しく理解し、段階に応じて自ら参加する。
- ⑤ 諸検査(検体検査、生理検査、画像検査)の基本を理解し、段階に応じて自ら参加する。
- ⑥ 歯科的基本手技（口腔内診査、麻酔、齲蝕処置、印象、歯周／歯内処置、補綴治療、簡単な抜歯、止血、縫合、穿刺、ドレナージなど）を身につける。

(4)経験すべき病態

歯と口腔、顎顔面領域全てに関連する病態を含む。

●基本習熟コースと基本習得コース

(1) 基本習熟コース

一般目標 (GIO) : 個々の歯科医師が患者の立場に立った歯科医療を實踐できるようになるために, 基本的な歯科診療に必要な臨床能力を身に付ける。

<各ユニットの一般目標 (GIO) ならびに行動目標 (SB0s) >

1) 医療面接	
一般目標 (GIO)	患者中心の歯科診療を実施するために, 医療面接についての知識, 態度及び技能を身に付け, 実践する。
行動目標 (SB0s)	<ul style="list-style-type: none"> ① コミュニケーションスキルを実践する。 ② 病歴 (主訴, 現病歴, 既往歴及び家族歴) 聴取を的確に行う。 ③ 病歴を正確に記録する。 ④ 患者の心理・社会的背景に配慮する。 ⑤ 患者・家族に必要な情報を十分に提供する。 ⑥ 患者の自己決定を尊重する (インフォームドコンセントの構築)。 ⑦ 患者のプライバシーを守る。 ⑧ 患者の心身における Q O L (Quality Of Life) に配慮する。 ⑨ 患者教育と治療への動機付けを行う。
2) 総合診療計画	
一般目標 (GIO)	効果的で効率の良い歯科診療を行うために, 総合治療計画の立案に必要な能力を身に付ける。
行動目標 (SB0s)	<ul style="list-style-type: none"> ① 適切で十分な医療情報を収集する。 ② 基本的な診察・検査を実践する。 ③ 基本的な診察・検査の所見を判断する。 ④ 得られた情報から診断する。 ⑤ 適切と思われる治療法及び別の選択肢を提示する。 ⑥ 十分な説明による患者の自己決定を確認する。 ⑦ 一口腔単位の治療計画を作成する。

3) 予防・治療基本技術	
一般目標 (GIO)	歯科疾患と機能障害を予防・治療・管理するために、必要な基本的技術を身に付ける。
行動目標 (SBOs)	① 基本的な予防法の手技を実施する。 ② 基本的な治療法の手技を実施する。 ③ 医療記録を適切に作成する。 ④ 医療記録を適切に管理する。

4) 応急処置	
一般目標 (GIO)	一般的な歯科疾患に対処するために、応急処置を要する症例に対して、必要な臨床能力を身に付ける。
行動目標 (SBOs)	① 疼痛に対する基本的な治療を実践する。 ② 歯、口腔及び顎顔面の外傷に対する基本的な治療を実践する。 ③ 修復物、補綴装置等の脱離と破損及び不適合に対する適切な処置を実践する。

5) 高頻度治療	
一般目標 (GIO)	一般的な歯科疾患に対処するために、高頻度に遭遇する症例に対して、必要な臨床能力を身に付ける。
行動目標 (SBOs)	① 齶蝕の基本的な治療を実践する。 ② 歯髄疾患の基本的な治療を実践する。 ③ 歯周疾患の基本的な治療を実践する。 ④ 抜歯の基本的な処置を実践する。 ⑤ 咬合・咀嚼障害の基本的な治療を実践する。

6) 医療管理・地域医療	
一般目標 (GIO)	歯科医師の社会的役割を果たすため、必要となる医療管理・地域医療に関する能力を身に付ける。
行動目標 (SBOs)	① 保険診療を実践する。 ② チーム医療を実践する。 ③ 地域医療に参画する。

(2) 基本習得コース

一般目標 (GIO) : 生涯にわたる研修を行うために、より広範囲の歯科医療について知識、態度及び技能を習得する態度を養う。

<各ユニットの一般目標 (GIO) ならびに行動目標 (SB0s) >

1) 救急処置	
一般目標 (GIO)	歯科診療を安全に行うために、必要な救急処置に関する知識、態度及び技能を習得する。
行動目標 (SB0s)	① バイタルサインを観察し、異常を評価する。 ② 服用薬剤の歯科診療に関連する副作用を説明する。 ③ 全身疾患の歯科診療上のリスクを説明する。 ④ 歯科診療時の全身的合併症への対処法を説明する。 ⑤ 一次救命処置を実践する。 ⑥ 二次救命処置の対処法を説明する。

2) 医療安全・感染予防	
一般目標 (GIO)	円滑な歯科診療を実施するために、必要な医療安全・感染予防に関する知識、態度及び技能を習得する。
行動目標 (SB0s)	① 医療安全対策を説明する。 ② アクシデント及びインシデントを説明する。 ③ 医療過誤について説明する。 ④ 院内感染対策 (Standard Precautions を含む) を説明する。 ⑤ 院内感染対策を実践する。

3) 経過評価管理	
一般目標 (GIO)	自ら行った治療の経過を観察評価するために、診断及び治療に対するフィードバックに必要な知識、態度及び技能を習得する。
行動目標 (SB0s)	① リコールシステムの重要性を説明する。 ② 治療の結果を評価する。 ③ 予後を推測する。

4) 予防・治療技術	
一般目標 (GIO)	生涯研修のために必要な専門的知識や高度先進的技術を理解する。
行動目標 (SBOs)	① 専門的な分野の情報を収集する。 ② 専門的な分野を体験する。 ③ POS (Problem Oriented System) に基づいた医療を説明する。 ④ EBM (Evidence Based Medicine) に基づいた医療を説明する。

5) 医療管理	
一般目標 (GIO)	適切な歯科診療を行うために、必要となるより広範囲な歯科医師の社会的役割を理解する。
行動目標 (SBOs)	① 歯科医療機関の経営管理を説明する。 ② 常に、必要に応じた医療情報の収集を行う。 ③ 適切な放射線管理を実践する。 ④ 医療廃棄物を適切に処理する。

6) 地域医療	
一般目標 (GIO)	歯科診療を適切に行うために、地域医療についての知識、態度及び技能を習得する。
行動目標 (SBOs)	① 地域歯科保健活動を説明する。 ② 歯科訪問診療を理解し、説明する。 ③ 地域における歯科二次診療を経験する。 ④ 医療連携を説明する。

●研修の指導体制

助教以上の常勤教員及び医員が、指導医として1対1で指導にあたる他、メンター、チューターが研修期間を通してサポートにあたり、他の医師や看護師、歯科衛生士、歯科技工士等の医療スタッフが指導補助にあたる。

●研修管理委員会の名称

京都大学医学部附属病院歯科医師臨床研修管理委員会

●募集定員 18名

●研修開始日

平成30年4月1日

●実施施設等

- 京都大学医学部附属病院

所在地：京都市左京区聖護院川原町5-4

管理者：稲垣 暢也

研修実施責任者：別所 和久（総合臨床教育・研修センター歯科医師臨床教育・研修部長）

プログラム責任者：別所 和久（歯科口腔外科長）

副プログラム責任者：高橋 克（歯科口腔外科外来医長）

山口 昭彦（歯科口腔外科病棟医長）

指導歯科医：高橋 克、園部 純也、山口 昭彦、他全14名

<臨床研修協力施設>

- むとう歯科医院

所在地：滋賀県彦根市西今町363-5

研修実施責任者・指導歯科医：武藤 幸夫（院長）

- 溝渕歯科

所在地：京都市北区紫野泉堂町63-2

研修実施責任者・指導歯科医：溝渕 健一（院長）

●研修の評価

- ・目標達成状況・研修状況の評価

研修の目標達成状況の評価については、インターネット上で稼働しているオンライン歯科医師臨床研修評価システム（DEBUT）により、研修医は研修状況の自己評価を、指導医は研修医の目標達成状況の評価を行う。

その他、研修医は症例等のレポートを作成・提出する。

1年間の研修終了時に、研修管理委員会において、研修医の自己評価・症例等レポート、各指導医の研修評価などを総合的に勘案し、修了判定を行う。

- ・指導医・研修環境の評価

研修医は、各科の指導医及び研修環境に対する評価を行い、その結果は、指導体制及び研修環境の改善と充実のために、京都大学医学部附属病院群の各病院にフィードバックする。